

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 21年 12月
(第49 ~ 53週)

発行年月日：平成22年(2010年) 2月 8日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 21年				平成 20年 ¹⁾		感染症 類型	疾 病 名	平成 21年				平成 20年 ¹⁾	
		1～11月		12月		1～12月				1～11月		12月		1～12月	
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	118	0	7	0	132
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	2	0	1	0	3
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0
	ベスト	0	0	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		鼻疽	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		ブルセラ症	0	2	0	0	0	4
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	2	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	
	結核	232	23,710	22	2,543	282	28,419	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	発しんチフス	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	2	
	鳥インフルエンザ(H5N1) ^(*)	0	0	0	0	0	0	マラリア	0	52	0	4	1	56	
三類	コレラ	1	16	0	0	0	45	野兔病	0	0	0	0	0	5	
	細菌性赤痢	0	168	0	11	²⁾ 3	320	ライム病	0	7	0	0	0	5	
	腸管出血性大腸菌感染症	27	3,668	0	169	53	4,322	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	腸チフス	0	28	0	1	0	57	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
	パラチフス	0	24	0	2	0	27	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	
四類	E型肝炎	1	47	0	7	0	43	レジオネラ症	8	625	0	64	10	893	
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	レプトスピラ症	0	11	0	4	0	42	
	A型肝炎	0	106	0	8	3	170	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	
	エキノコックス症	0	22	0	3	0	22	五類	アメーバ赤痢	9	693	1	76	10	872
	黄熱	0	0	0	0	0	0	ウイルス性肝炎	3	198	0	14	5	241	
	オウム病	0	20	0	1	0	9	急性脳炎	7	393	1	100	1	190	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	クリプトスポリジウム症	0	16	0	1	0	10	
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	129	0	11	2	152	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	劇症型溶血性レンサ球 菌感染症	2	96	0	7	1	113	
	Q熱	0	2	0	0	0	3	後天性免疫不全症候群	8	1,274	1	143	11	1,568	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	ジアルジア症	0	68	0	6	0	76	
	コクシジオイデス症	0	2	0	0	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	0	10	0	0	0	10	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	1	0	0	0	0	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	梅毒	2	616	1	60	5	839	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	破傷風	3	106	0	6	5	123	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	94	0	23	0	80	
	つつが虫病	0	277	0	178	0	442	風しん	2	141	0	6	2	309	
	デング熱	0	86	0	6	2	104	麻しん	7	712	0	29	39	11,015	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	新型インフルエンザ	138	12,327	0	78	-	-	
鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	新型インフルエンザ(H1N1) ^(**)	138	12,327	0	78	-	-		

(*)：平成20年5月12日から集計、(**)：平成21年7月24日から集計、-：未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (12月)

< 結核 > 22名

性別：男性 10名、女性 12名
 類型：患者 21名
 無症状病原体保有者 1名
 病型：肺結核 14名、その他の結核 8名

< アメーバ赤痢 > 男性 44歳

推定感染経路は経口感染で、推定感染地域は不明です。

< 急性脳炎 > 男性 58歳

推定感染経路は不明で、推定感染地域は日本国内です。

< 後天性免疫不全症候群 > 男性 57歳

推定感染経路および推定感染地域は不明です。また、病名は、AIDSです。

< 梅毒 > 男性 38歳

推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

12月の概要

<インフルエンザ>

第49～53週(11/30～1/3)の定点当たり患者数は、第45～48週(11月)よりかなり減少していましたが、第43週(10/19～10/25)に発令されたインフルエンザ警報は、引き続き発令されていました。年齢群別発生割合では、5～9歳および10～14歳で減少し、20～29歳および30～39歳で増加傾向となっていました。

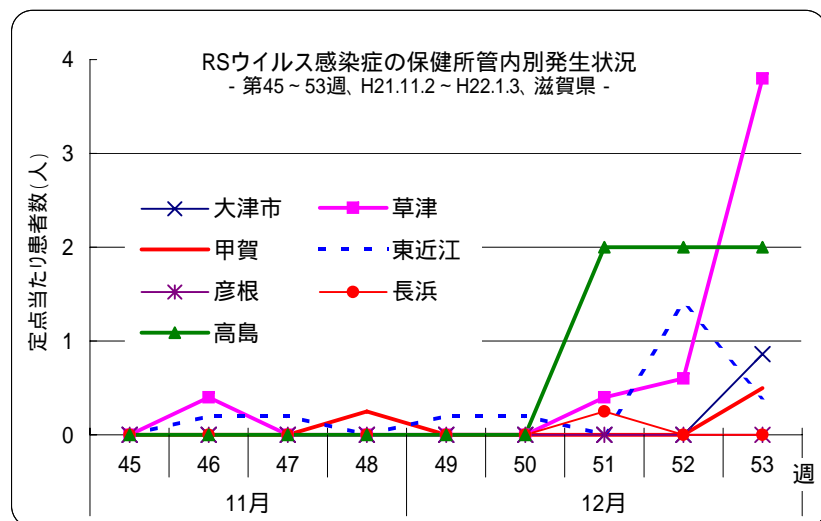
<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、水痘等で、減少した疾患は、A群溶レン菌咽頭炎、手足口病およびヘルパンギーナです(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。特に、RSウイルス感染症は先月より急増していました。また、感染性胃腸炎は、先月と同様、昨年同時期よりかなり減少していました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりやや増加し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は東近江から、無菌性髄膜炎は大津市から、マイコプラズマ肺炎は長浜から、それぞれ1名ずつ報告されていました。クラミジア肺炎の報告は、ありませんでした。

RSウイルス感染症の発生状況



11月の発生状況と比較すると、彦根以外で報告数は増加していました。特に、第51週には高島で、第53週には草津で急増していました。

また、県全体として急増した51～53週における年齢別発生割合は、～5ヶ月 14.8%、～11ヶ月 11.0%、1歳 50.0%、2歳 13.0%、3歳 7.4%、4歳 1.9%、5歳 0%、6歳 1.9%でした。

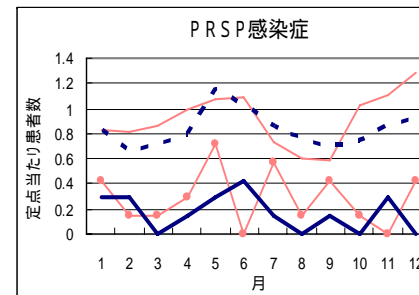
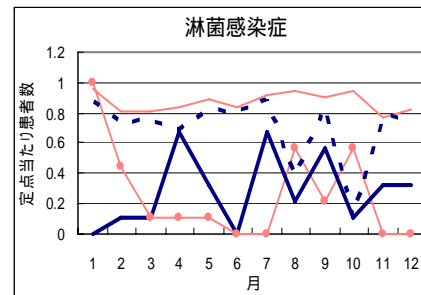
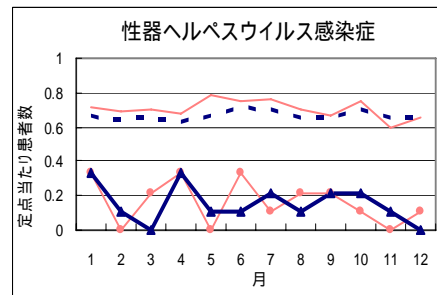
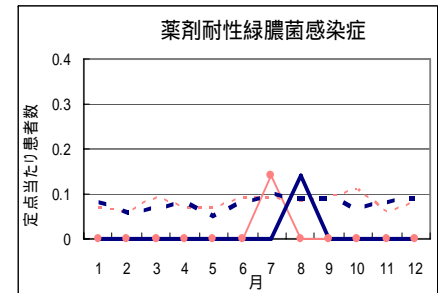
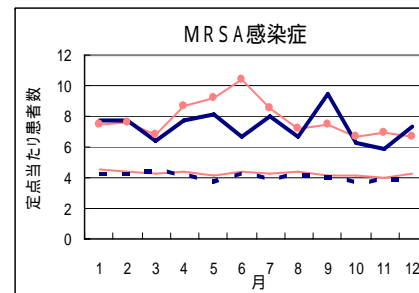
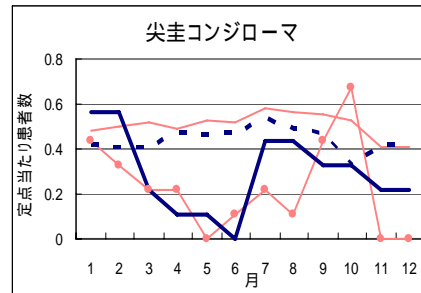
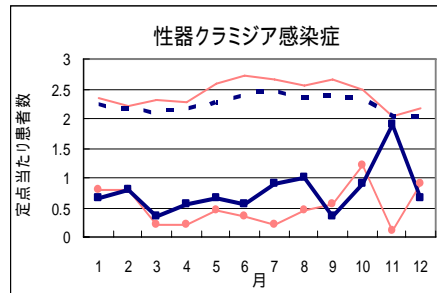
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成 21年 12月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	7	3	5	6	5	8	9	3	8	17	6	83
	定点当たり	0.67	0.78	0.33	0.56	0.67	0.56	0.89	1.00	0.33	0.89	1.89	0.67	9.24
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	1	0	3	1	1	2	1	2	2	1	0	17
	定点当たり	0.33	0.11	0	0.33	0.11	0.11	0.22	0.11	0.22	0.22	0.11	0	1.87
尖圭コンジローマ	罹患数	5	5	2	1	1	0	4	4	3	3	2	2	32
	定点当たり	0.56	0.56	0.22	0.11	0.11	0	0.44	0.44	0.33	0.33	0.22	0.22	3.54
淋菌感染症	罹患数	0	1	1	6	3	0	6	2	5	1	3	3	31
	定点当たり	0	0.11	0.11	0.67	0.33	0	0.67	0.22	0.56	0.11	0.33	0.33	3.44
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	54	54	45	54	57	47	56	47	66	44	41	51	616
	定点当たり	7.71	7.71	6.43	7.71	8.14	6.71	8.00	6.71	9.43	6.29	5.86	7.29	87.99
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	2	2	0	1	2	3	1	0	1	0	2	0	14
	定点当たり	0.29	0.29	0	0.14	0.29	0.43	0.14	0	0.14	0	0.29	0	2.01
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	定点当たり	0	0	0	0	0	0	0	0.14	0	0	0	0	0.14

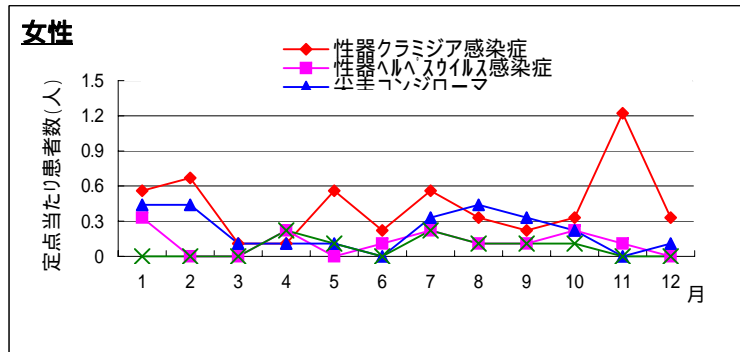
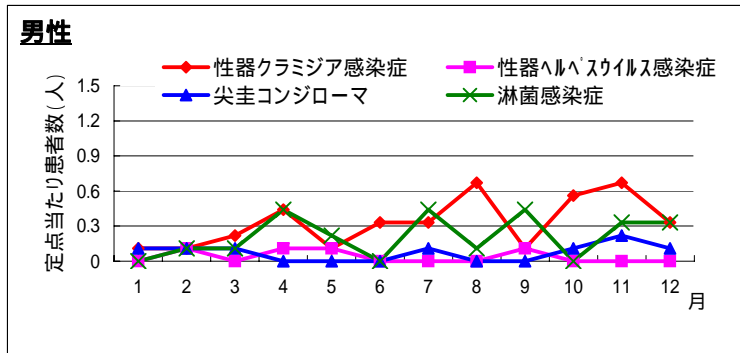


H20 { 滋賀 (赤丸) 全国 (赤線)
 H21 { 滋賀 (青丸) 全国 (青線)

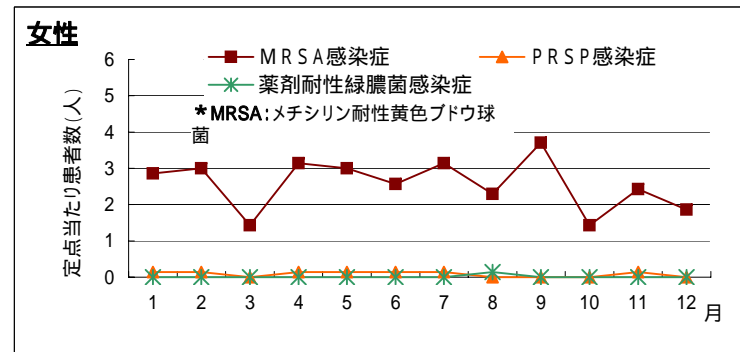
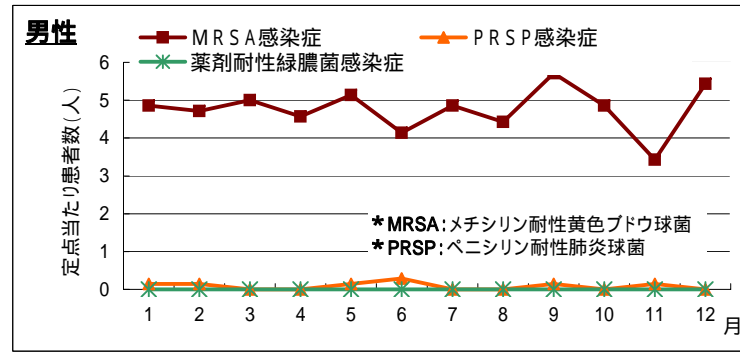
MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、先月急増した性器クラミジア感染症は半減し、MRSA感染症は増加しています。尖圭コンジローマおよび淋菌感染症は横ばいです。また、性器ヘルペスウイルス感染症、PRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症は報告されていません。

性感染症定点における疾患別発生状況 (H21.12)

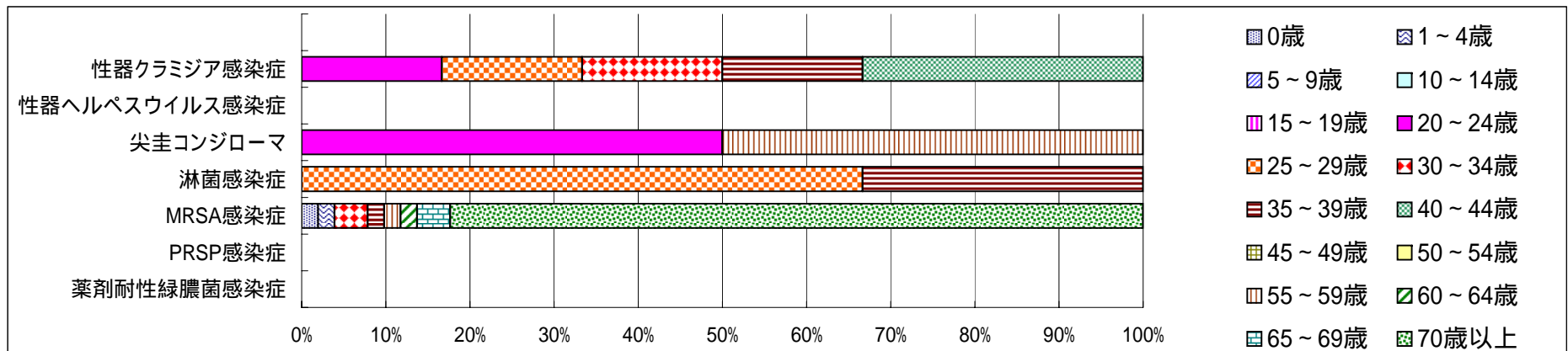


基幹定点における疾患別発生状況 (H21.12)

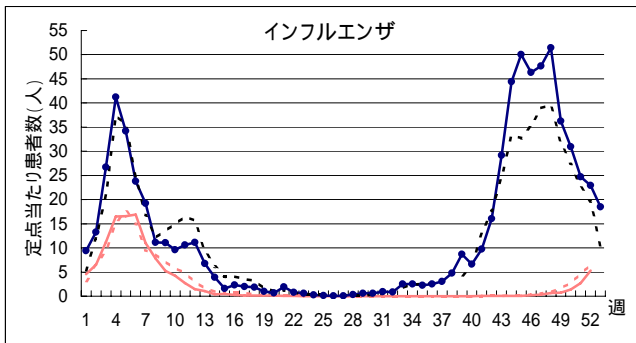


性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、グラフに示すとおりです。先月と比較すると、性器クラミジア感染症では、男性、女性ともに減少しています。MRSA感染症では男性で増加し、女性で減少しています。また、各疾患の年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。性器クラミジア感染症では、女性の20～29歳、男性の40～44歳からの報告がやや多くなっています。

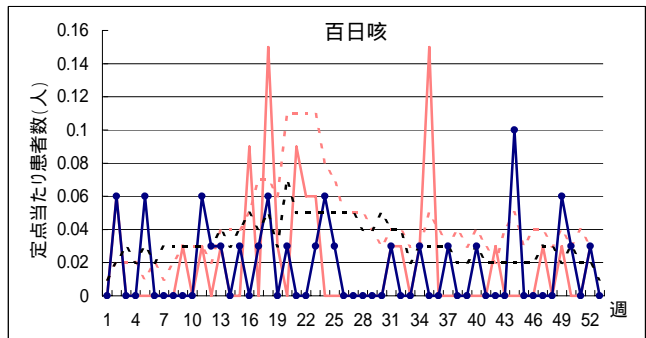
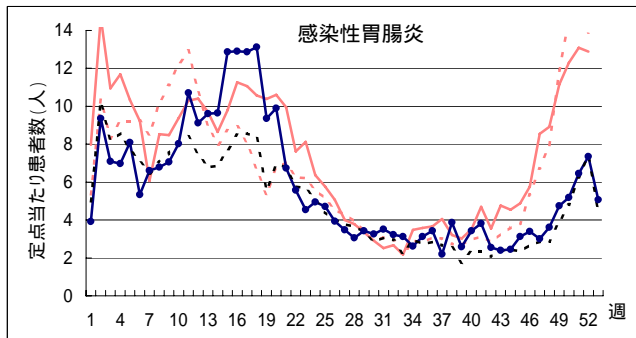
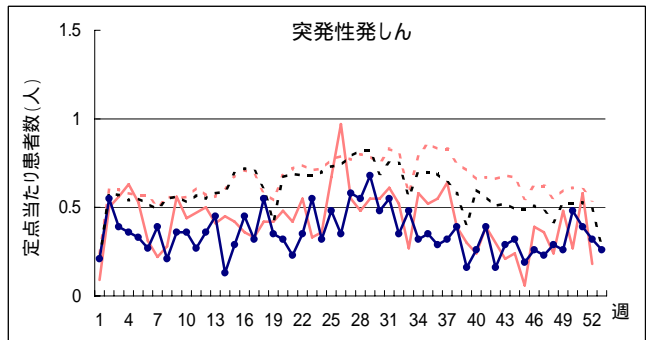
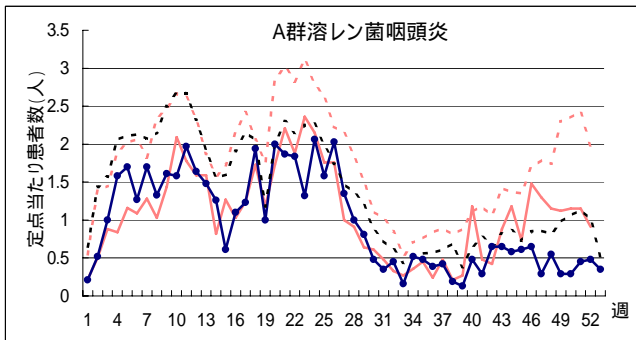
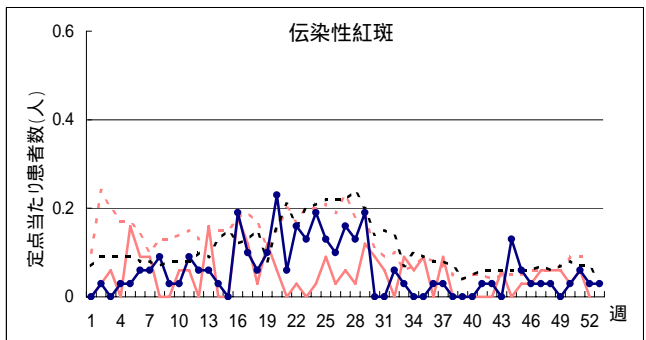
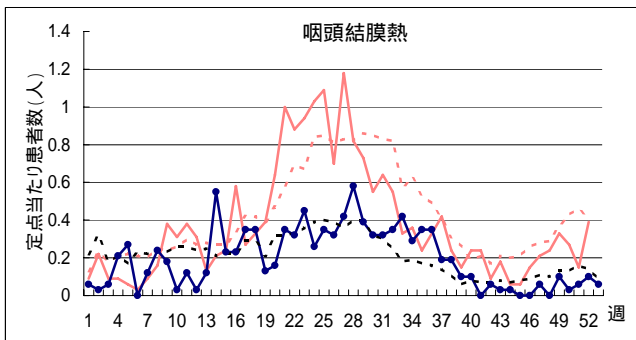
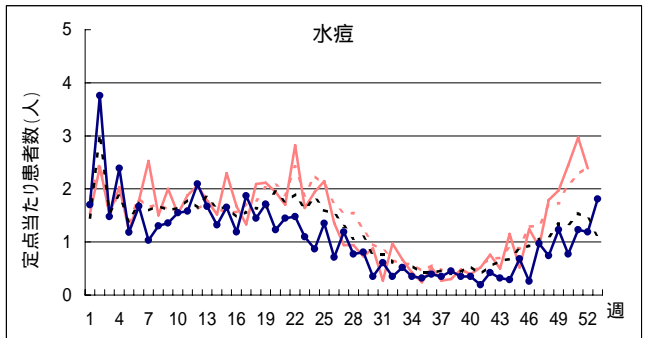
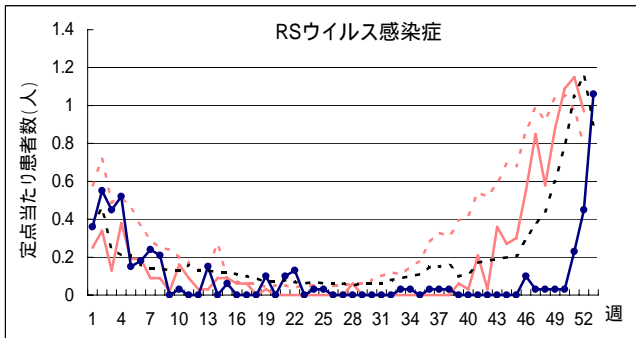
疾患別・年齢別発生状況 (H21.12)



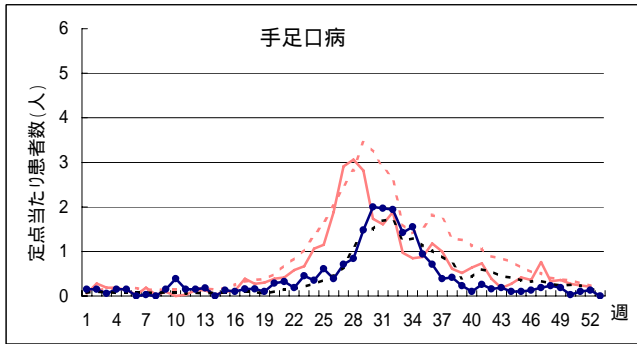
疾病別定点当たり患者数(平成21年第1~53週、H20.12.29~H22.1.3)



H20 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H21 { 滋賀 (solid blue line)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成21年第1～53週、H20.12.29～H22.1.3)



H20 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H21 { 滋賀 ————
 全国 ······

